

投与プロトコール 1コース 7日間 8コース 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
ルートkeep	生理食塩液	250ml	Day1	5時間	
プレメディ(内服)	アセトアミノフェン錠200mg	2錠	Day1	ポララミン投与の30分前	
プレメディ(注射)	ポララミン注5mg 生理食塩液	1A 100ml	Day1	30分 点滴	全量500mlに調整
①	リツキシマブBS 375mg/m ² 生理食塩液	mg 500ml	Day1	下記	

<使用上の注意点>

☆緑内障、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者は、ポララミン注は禁忌。

(オロパタジン錠等へ変更)

【リツキシマブ】

◆ infusion reaction がリツキシマブの初回投与中または投与開始24時間以内に多く現れるため、前投薬の内服・緊急時の対処について念頭におくこと。

投与速度は、最初の1時間は30ml/h、その後1時間100ml/hに上げ、さらにその後は1時間

200ml/hと速度アップ可能。2回目からは、100ml/hで開始し、その後は1時間200ml/hの速度アップ可能。

注入速度に関連して血圧低下、気管支痙攣、血管浮腫などの症状が発現するので注入速度を守る。他剤との混注はしないこと。

投与時に、血圧低下、SaO₂低下、悪寒、発熱などの反応が見られたら、注入を止めて主治医コール。

投与サイクルは、週に1回、4~8コース、または何ヶ月に一度など。

◎リツキシマブは、投与量が変動しても調整は必ず全量500mlになるように調整する。

<調製時の注意点>

【リツキシマブ】

◆抗体が凝集するおそれがあるので、希釈時および希釈後に泡立つような振動を加えない。

タンパク質溶液であるため僅かに半透明の微粒子がみられることがあるが、これにより

薬効は影響を受けない。なお、これ以上の外観上の異常を認めた場合には使用しない。

防腐剤を含まないため、調製後は2~8℃で冷蔵保存する。